

## ミュンスター大学交流実施事業担当

### 山内惟介法学部教授 閉会のご挨拶

御名残は尽きませんが、閉会のときが近づいてまいりました。エーラーズ教授への名誉博士学位贈呈の企画に関与した者のひとりとして、結びの御挨拶を申し上げます。

まず、御多用中、本日の名誉博士学位贈呈式および祝賀会に御臨席賜りました皆様に感謝申し上げます。この企画を最初に橋本前法学部長に御相談したのは2011年度のことでしたが、この日を迎えるにあたっては、特に今年2月以降、中島法学部長および鈴木法学部事務長のお力が大きかったことを強調しておかなければなりません。本日、御式辞を頂戴した遠山総長職務代行および福原学長、そしてエーラーズ教授の御業績を要領よく御紹介下さった松原教授、今回の企画に快く賛同され御支援下さった同僚の皆様、名誉教授あるいは法科大学院教授となられた先輩および同僚を初めとして、ミュンスター大学との交流計画にこれまでさまざまなかたちで御参加下さった皆様、そして随所で御支援下さった関係事務室の皆様にも、この機会に改めて感謝申し上げます。

次に、ミュンスター大学のゼンガー教授がわざわざ本日の式典に参加して下さったことについても、御紹介とともに、お礼を申し上げます。ミュンスター大学との交流が実質的に始められたのは1984年秋のことでした。エーラーズ教授のお話しにもありました通り、ミュンスター大学側の本学に対する高い評価が現職法学部長の派遣という積極的な外交姿勢にそのまま反映されております。今回の名誉博士学位贈呈がドイツ人に対する最初の榮譽であるという事実と併せ考えると、両大学間の交流には明るい展望が開けたことと存じます。今後、本学から派遣される方々もミュンスターで歓待されることと思えます。

さらに、エーラーズ教授夫人およびミュンスター大学側関係者の御家族が交流の推進に向けて日頃から御支援下さっているという事実についても、感謝の念とともに、御紹介しておきたいと存じます。「家族がいてこそ、支え合って心の交流ができるのだ」というのが1980年代半ばに法学部長としてこの交流を積極的に推進されたグロスフェルト名誉教授の口癖でした。交流の現場は派遣教員同士の個人的な学問研究の話だけで終わるわけではありません。法の背後には人々の生きた現実社会があり、家族の参加は異文化間コミュニケーションを図る上での大きな支えとなっています。すべての基礎にあるのは、交流の現場に参加する方々の人間力そのものにほかなりません。

以上、多くの方々のお力添えを戴いてここまで歩んできたミュンスター大学との30年に及ぶ交流は、もとより、グローバル人材の養成を目指し、本学が世界的規模で多角的に行っている国際交流事業の一部にすぎません。関係者一同はそれぞれの立場において今後も国際交流に一層の努力を傾注することと思えますが、本学の発展にとどまらず、世界の人々の真の交流実現に向けて、皆様のさらなる御支援を賜りますよう、お願い申し上げます。以上をもちまして、閉会の御挨拶と致します。ありがとうございました。